

奈良公園の魅力を向上させるプロジェクト推進に必要な支援

平成29年10月

【担当省庁】国土交通省

◆国にお願いすること

オリンピック・パラリンピック東京大会を見据え、全ての旅行者がストレスなく快適に観光を満喫できる「おもてなし環境」を整備するため、奈良公園の魅力を向上させるプロジェクト推進に必要な、社会資本整備総合交付金の重点配分。

◆プロジェクトの目標

自然や歴史・文化、公園資源等が融合した「歴史・文化公園」の魅力を持ち「日本の公園の顔」でもある、奈良公園の多様な観光資源を磨き上げ、ニーズに応じた受入環境を充実させることで、国際競争力のある生産性の高い観光産業へ変革。

＜代表的な指標＞

奈良市の観光入込客数	1, 314万人(H23)	→	2, 068万人(H33)
奈良市の年間宿泊者数	136万人(H23)	→	221万人(H33)
奈良市の年間観光消費額	1, 172億円(H23)	→	1, 862億円(H33)
奈良市の外国人訪問客数	17.4万人(H23)	→	100万人(H32)

◆奈良公園の魅力を向上させるプロジェクト

＜吉城園周辺地区、高畑町裁判所跡地＞

民間活力を最大限活用し、奈良公園の名勝としての価値をさらに高めるとともに、奈良公園をゆったりと周遊できる空間を整備し、滞在型観光を促進します。

吉城園周辺地区



高畑町裁判所跡地



知事公舎（左）・副知事公舎（右）を活用した宿泊施設

庭園と調和した宿泊施設（左）、飲食交流施設（右）

◆『世界に誇れる奈良公園』をめざした取り組み

○ 奈良公園の魅力をゆったり周遊し満喫できるよう、安全で快適な歩行空間、多言語の案内サイン、無料Wi-Fi（エリア約60ha）等のおもてなし環境を整備。



「奈良公園観光地域活性化総合特区」の活用、国内外でのインバウンドプロモーションにより年間約1千万人の観光客を迎え入れており、特にアジア圏だけでなく欧米からの高い訪問率を実現。

＜(仮称)登大路バスターミナル＞

外国人や修学旅行生などの観光客へのおもてなし環境を向上するため、奈良公園の玄関口に、アメニティの充実や奈良公園の歴史文化を学習できる施設の他、バスによる渋滞を緩和する施設を整備します。



バスターミナル（左）、歴史文化を学習できる展示施設（右）